

1 生活班

<課題>

- ・すべての学校に共通する課題は、衛生的な生活を送ることの項目が低いこと。
- ・学校ごとでは、新屋小は「あいさつ」、小幡小は「整理整頓」、福島小は「丁寧な言葉遣い」甘楽中は交通ルールの中の自転車の乗り方（技術）に課題がある。
- ・生活班の結果は、A+Bの評価は90を超えるが、B評価が多く、自信をもってAと言えない児童生徒が多い。
- ・各校B評価の児童生徒をA評価にしていくことが課題。

<生活の合言葉>

- あ・・・あかるいあいさつ
- た・・・ただしことばづかい
- り・・・りようしやすく せいりせいとん
- ま・・・まもろう交通ルール
- え・・・えいせいてきなせいかつ

2 学習班

(1) 教科書ノート左上・チャイム着席

- 小幡小の定着率が高い
- 甘楽中のチャイム着席はよい
- 小学校は下学年でやや低い数値あり

(2) 話す・聞く

- 小中ともに80%以上の数値

(3) 提出物・課題

- 中学校の学年によっては落ち込みが見られるが、小中全体的によい数値

(4) 家庭学習の時間

- △中学校の学年+1時間は厳しいものがあるが頑張っている
- 小学校は全体的に高い数値

(5) 読書

- 中学校は全学年60%台
- 小学校はどの学校も50～60%に落ち込んでいる学年が複数ある

(6) 粘り強く・計画的に学習

- 小学校では70%台の学年もある
- 中学校では3年生になると高い数値になっている

<話すときの合言葉>

- た・・・たしいしせいで
- ち・・・ちょうどよい大ききさで
- つ・・・つたわるようにはっきりと
- て・・・ていねいないいかたで
- と・・・友だちにわかるように

<学習するとき>

- ・発表するときは、手をまっすぐ上にあげよう
- ・名前を呼ばれたら「はい」とへんじをしよう

3 思いやり班

- ・「友達に、君・さんをつけて呼んでいますか？」の間では各学年で落ち込む傾向がみられる。各学校で確認し、各校で指導を行うことが必要。
- ・ピアサポートのできる児童生徒の育成に向けて、9年間の指導計画に基づき実践を行っている。小小連携・小中連携として28年度より実施している取組を今後も継続していくことが必要。また、日常的な働きかけや指導を心がけることも大切。
- ・中学生は思いやりの気持ちがあっても、素直な行動がとれない傾向があるのか、AよりBと答える生徒が多い。Aと答える生徒が増えるよう働きかけていく。
- ・小中とも認め合い高め合える集団作りが必要。
- ・ピアサポートの基本である、話の聴き方「あいうえお」を低学年から定着させていくことが大切。「あいうえお」は生活班や学習班にも共通するものなので、しっかりと定着させたい。

- あ・・・相手の顔を見て
- い・・・いい姿勢で
- う・・・うなづきながら
- え・・・笑顔で
- お・・・終わりまできく

～今後の取組について～

- ・学校ごとに落ち込んでいる部分について指導を工夫する。
※工夫したことは、個人でも記録しておいてください。
- ・半年後(今年度1月)に2回目のアンケートを実施し、来年度の指導を検討する。
- ・来年7月に3回目のアンケートを実施し3回分を比較、分析する。